

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成24年度第1回生涯学習センター運営委員会		
事務局 (担当課)	教育振興部 生涯学習センター 内線4567(757-8481)		
開催日時	平成24年4月5日(木)午前10時～11時30分		
開催場所	生涯学習センター OALルーム		
出席者	委員	大塚啓子、大音裕子、堀田啓子、常行貞臣、石津容子、松浦孝治、 安藤真弓、山本朗、西谷久範、渡瀬順之	
	その他	教育長、教育振興部長	
	事務局	中定久紀、喜田由加里、藤原育子、海野恵子	
傍聴の可否	可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会、挨拶 議題 (1)平成23年度アンケート結果について (2)平成24年度生涯学習センター事業について (3)平成24年度レフネック第19期生の公開抽選について (4)平成24年度レフネック第19期生の入学式について (5)生涯学習センターの利用状況について その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

1. 教育長挨拶

事務局 ご多用のところ本委員会にご出席いただきましてありがとうございます。私 4 月 1 日付で教育委員会参事兼生涯学習センター所長を拝命いたしました中定久紀と申します。どうぞよろしくおねがいいたします。また喜田が所長補佐に職名を変更しております。それでは教育長益満良一よりご挨拶させていただきます。

教育長 あらためまして、おはようございます。新年度がはじまり、本日は生涯学習センター運営委員会にご参集いただきましてありがとうございます。また、2 月末には、急きょ生涯学習センター移転の説明の際にお集まりいただきましてありがとうございました。3 月市議会におきましても様々な議論がもう少し審議されるかと思っておりましたが、移転の予算が24年度の予算に明確に上がっていないこともあり、あまり議論されませんでした。説明した段階ですが、市民と議会の関心は高いように感じられます。今後、移転予算の補正予算等は早ければ9月ぐらいに提出される予定ですが、その時点でまた様々な角度からの議論がされると思っております。我々といしましては、アステ川西に生涯学習センターが移転すると利便性が高まることと存じます。また、面積もこの館と同じほどぐらい確保できるということで、市民サービスの向上にはつながるのではと考えております。また、運営するものも非常に重要です。今後とも運営についても皆様方の忌憚のないご意見をいただければと思います。じつは先月の末に、木津川学長とお会いすることがありまして、意見交換をいたしました。基本的には生涯学習センター、特にレフネックには内外ともに高い評価をいただいております。学習に参加されている学生にとりましては、講義内容といい、我々スタッフ、木津川学長をはじめとする事務局体制も高い評価を得ておるということ、もうひとつは、川西の街を文教都市と考えた場合、やはり公民館が文化的市民の活動を任されておるだろう、レフネックは教養的な趣味の部分を担当しているのではと。その中で、もう少し文教を考えた場合、公民館と生涯学習センターの両方が、もう少し密接にお互いが意識して連携してよいのでは、と思ったのです。今度、アステ川西に移転した場合、非常に賃料が高い中で、税金の有効活用を考えた場合、どうしても生涯学習センターだけのカリキュラム、あるいは活動に、もう少し活用範囲を広げて市民サービスの向上につなげてよいのではと木津川学長と話をさせていただきました。言うならば、レフネックの教養的趣味の部分と文化的な部分とが、もう少し近づく、これは決してレフネックの講義内容のレベルを落とすといくことではありません。講義の内容には来られる先生方を含めて、内外とも評価をいただいております。その水準は保ちながらどのように融合して、活用できないかなど、話させていただきました。木津川学長もそのようなことが必要と言っておられました。今後、運営委員会の中で24年度にご議論いただければと思っています。早ければ、25年の早い段階で生涯学習センター、レフネックの移転がございませぬ。我々、生涯学習センター事務局のありかたも、もうすこし公民館を含めていく必要があるかと思っております。社会教育、あるいは生涯学習教育のなかでどうしていくか1年かけて検討していきたいと思っております。いま、折しも川西市の総合計画は最終の

年度です。10年のスパンで川西市の街づくりの指針を定めるわけですが、その中で生涯学習教育のあり方、描き方の部分も、やや連動していく考えであります。レフネックの館の問題、あるいはスタッフの問題、様々なことを我々も検討していきたいと考えております。そういったことを含めて、生涯学習センター運営委員の先生方にはご議論いただければと思います。どうぞ今年一年間、宜しく願い申し上げます。

事務局 先ほど4月1日付の人事異動にすこしふれましたが、4月1日付で教育振興部長、泉が臨席させていただいております。

部長 4月1日付で教育振興部長を拝命しました泉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、議事の進行に移らせていただきます。大塚委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長 皆様、おはようございます。本日、第1回の運営委員会ということで、全員のご出席をいただきまして、ありがとうございます。先ほど教育長からお話がありましたが、本年度は多分、25年度にかけてアステのほうに移転するとのお話でございますので、折に触れて議題に入っていこうかと思っておりますので、私たち運営委員といたしましても、日頃から移転にあたってどのような要望をすればよいのか、どのようにしていただくと良いであろうかなど、何となく心の中で考えていきたいと思っております。それでは、今日はよろしくお願いいたします。

2. 報告・議題

(1) 平成23年度アンケート結果について(資料1)

委員長 それでは平成23年度アンケート結果につきまして事務局から説明がございました。

事務局 平成23年度アンケート結果についてご報告させていただきます。調査対象は22年度入学の応用工学科と文学・文化学科、23年度入学の農学科と文化遺産学科、計4学科の学生275名に対して配布し、232名の回収がございました。回収率は84.4パーセントです。問1から順次報告いたします。

問1. レフネックはどのようにして知られましたか

複数回答はありますが、平成23年度募集につきましては、3月1日号広報誌に掲載する記事と入学案内冊子で知られるケースが多く、また知人からレフネックを知ったとの回答も17%ございました。この回答は昨年と比べてほぼ同じ結果となりまして、全体的には周知されてきている結果が表れております。その他の項目につきましては、ご家族のなかでレフネックに入学されている方が多く、ご家族からの意見で応募されてお越しになっていらっしゃるという方が多くございます。特に、奥様がすでにレフネックを経験されて、ご主人や子どもさん等に言われて応募されて来ているという結果がでておりま

す。

問 2.レフネックの講義について

申込み時と比べて

「期待以上の内容」もしくは「期待通りの内容」との回答が 87.9%の学生からご回答がございました。ご意見として、応用工学科から「2年次は1年次と比較して難しい講義がある」「2年次は難しかった」農学科では「日常生活に役立つ内容にして欲しい。知識としては役立っているが」というご意見をいただいております。

内容について

「よく理解できる」「理解できる」という回答が 82.8パーセントの学生からございました。応用工学科からのご意見としまして「古びた学生相手に手抜きすることなく、講義を続けてくださった阪大の先生たちの真摯な態度に感銘を受けました。講義内容はとても高度なもので、満足感で一杯です。消化不良の部分もありますが」というようなご意見、「あまりに専門的すぎて、理解できない内容が多々ありました。でも、未知の分野の勉強ができたことで視野が広がったと思います」というご意見、それから、文学・文化学科からは「先生方の熱い思いが伝わりました」農学科からは「農学と単に言っても経営等、不得意の分野もあり広範囲であると知った」「一人の先生が数コマづつもって、持続性のある講義がいいのではないか」というご意見、それと文化遺産学科からは「十分満足の出来る講義内容でした。2年次が楽しみです」と、さまざまなご意見を頂戴いたしました。

講義前後の予習復習について

「適宜している」「特にしていない」がほぼ同じ回答がございました。この回答も毎年同じご意見をいただいておりますが、「レジメを前もって欲しい。予習するところが的外れになるケース多い」「予習をしなければ講義があまりにも専門的な内容なので理解しにくい」とのご意見、これは毎年ですが同じようなご意見を頂戴しております。事務局としまして、講師にはできるだけ早く資料をお願いはしておりますが、なかなか講師の先生もお忙しくされておられまして、前日までに資料が届くというのが実態です。学生はそのようなことが分かっている方が大半で、学生は3分の1から2分の1が講義の開始の1時間前からお越しになられ資料に目をとおしてから講義に臨まれる様子がみられます。受講に対して熱心な姿勢がすごく窺えます。また、「資料を前日配布でないと予習できない」ということから講義前後の予習復習を「特にしていない」の答えがこれに該当しているのかと思っております。いずれにしても、事務局といたしまして、講師と調整を図っていきながらできるかぎり早く資料を配布できるよう図っていきたいと思います。

問 3.レフネックの事業運営について

課外講座について

例年本科と異なり平日に開催しているため参加が難しいとのご意見がございます。参加いただいている学生からは「おおむね満足している」との結果となっております。

オープン講座について

こちらも平日開催で、参加が難しいことなどから、文化遺産学科の学生からは「回数

を増やしてほしい」文学・文化学科、農学科の学生からは「オープン講座の人数を多くしてもらいたい、抽選に外れて残念の声を聞く」とのご意見がございました。ご参加いただいている方からは概ね満足をいただいておりますが、応募が多ければ抽選というような形になってしましまして、外れた学生からは、やはり「もっとたくさん人数をふやしてほしい」とのご意見は毎年ございます。

学生委員会制度について

この学生委員会は、他の学習施設にない制度でありますので、学生が自主的、主体的運営意識を育み、親睦を深める目的のために、私どもは設置しております。その観点から理解をいただいていないというご意見がやはりございます。ただ、生涯学習短期大学のカラーを出す取り組みですので、いろいろなご意見がございませけれども、事務局といたしましては、学生委員会の趣旨をわかりやすく説明して、今後も取り組んでまいりたいと思っております。

問 4.今後レフネックで学習したい内容は

多い順で歴史、自然科学、社会学、生命科学、心理学、経済という順番で、上位 6 項目は、毎年ほぼ同じ結果となっております。過去の学科等も勘案しながら次年度の学科やオープン講座の参考にはさせていただいておりますが、レフネックの科目は、専門的かつ高度な内容を設定しております関係上、学生の要望は、一応、参考としてとらえる中で、学生の自己表現できる内容で今後も進めてまいりたいと考えております。

問 5.現在どのような生涯学習をされていますか

昨年アンケート結果と比べまして、ほぼ同じでございます。レフネックのみが 50 パーセントとなっているものの、半数の学生がレフネックのほかの学習施設でも学習している結果となりました。例年、阪神シニアカレッジはもちろんのこと、応用工学科の学生からは、大学は不明ですが通信制大学を受けているとのこと、文学・文化学科の学生は、龍谷大学、大阪経済大学の講座を受けている等、多数みられます。ここ数年、各大学の開催する講座等に参加する学生が増えてきております。

問 6.習得された知識や貴重な経験を活用した講師指導等はされていますか

「している」11.2 パーセント、「したいと思う」11.8 パーセント、「するつもりはない」67.4 パーセントです。

問 7.コミュニティ活動やボランティア活動の参加について

「参加している」と「参加したい」と 76.5 パーセントの学生から回答がございました。問 6 の経験を活用した講師指導について「するつもりない」と 67.4 パーセントの回答がありましたが、これにつきましては、少しではありますが、「するつもりがない」の数字が徐々に減ってきております。地域社会への積極的な貢献は見られますけれども、ご自分が先頭に立って活動するということには、まだ消極的なご意見となっているのではないかと考えられます。事務局といたしまして、昨年よりも少しずつでも「参加している」「参加したい」という数字を上げていけるように、学生とさらにコミュニケーションを図り

ながら講師指導の機会をつくってまいりたいと思っております。

なお、個々のコメントや自由意見の多くから、前向きに学習に取り組む姿が見られました。学習のみでなく日々の生活や生き方にまで影響を及ぼしている様子が見られる結果となりました。以上でアンケート結果についての報告とさせていただきます。

委員長 ありがとうございます。細かくアンケートの内容をとっていただいておりますので、いま全部私ども詳しく見ることは無理かと思うのですが、今ご説明していただいた中で、ご質問なりご意見なりございましたら、お聞かせいただければと思います。

委員長 アンケートは毎年とっておられますか。

事務局 毎年行っております。時期につきましては、昨年監査から指摘がございまして、例年は10月に実施しておりましたけれども、やはり講義が全部終了してから実施する方が望ましいとの指摘がありましたので、11月の最終講義から2回目に遡り今年はさせていただきます。

委員長 聞いておりましたら、だいたい例年どおりのご回答で、変化は見られないということですが、具体的にアンケートをお取りになっていて、問題点なども浮き上がっているようなこともあるかと思えます。問題点となるようなことはあらかじめアンケートに載せない、また、アンケートはどのように活用しておられるかなど、なにかおひとつ、お聞かせください。

事務局 文字の羅列が多いですが、ご意見はすべて掲載させていただいております。よい意見も耳の痛いご意見もございしますが、どのようなご意見も真摯に受け止めながら事務局として運営を図っていきたいと思っておりますので、包み隠さず載せさせていただきます。

委員長 この結果は学生の皆さんに開示しておられますか。

事務局 開示しておりません。

委員長 これはどうでしょうか、委員の皆様、開示についてはどのように思われますか。ご意見もお願いいたします。

委員 結果の開示については、即座には、あまり賛成しかねます。開示してはいけないとかではなく、はたして開示したとき良いように取っていただけるとよいのですが、事務局として、長いスパンでの進め方を考えると、少しやりにくくなるのが考えられます。やはり、受け身の方のご意見と、私もそうですが、講座等をいろいろ立ち上げてやっていく側では、なかなかしんどい部分だと思います。危惧するものも潜在的にありますので、ご意見のもろもろ開示してしまうことには賛成しかねます。もうすこし咀嚼して、方向性を

示して、圧縮するというのであればと思います。

委員長 実際、私もアンケートにつきまして友人が、どこでご覧になったかは定かでないのですが、アンケートの内容について、深読みなさるかたもいらっしゃるのですね。こういう短い言葉で書いてあっても、「どうしてこういうアンケートに載るのかしら」とちょっとお聞きしたのです。そのときアンケートの結果は開示しておられるのかと疑問が湧いたものですからお聞きしました。学生の皆さん全員に開示してよし悪しという部分もございますね。

事務局 この運営委員会はすべて情報公開になりますので、資料は市政情報コーナーに置かせていただいております。多分、それを見られて、お友達の方はそのようなご意見をおっしゃったのかと思います。この会議は情報公開の観点でさせていただいておりますので、学生には開示しておりませんが、市政情報コーナーに行けばきょう開催されました会議内容と要旨だけですが、置かせていただいております。

委員長 良いことですね。

委員 学生委員会制度についてですが、委員は何名おられますか。どのように決められるのでしょうか。

委員 各学科で7名です。委員長、副委員長、書記が各1名と会計、企画が各2名です。委員 活動はうまくいっていますか。

委員 学生委員会は、学生として勉強会、見学に行くなど独自に企画します。あとは、4学科ありますから、合同の会議が年2回ありますね。

事務局 合同学生委員会が年1回と、あとは正副委員長会が数回ございます。

委員長 学生委員については、各学科で、ある程度、地域ごとに選ばれていますね。

委員 そのとおりです。各班から班長さんとして選ばれた方が学生委員です。1年限りです。

事務局 毎年改選されて、同じ方はなりません。

委員 周知されていないとの意見もあります、満足している方が少ないようですので、その制度はどうかと思ったのですが。

委員 まとまりの良い学科とそうではない学科があります。

委員長 年齢的にも難しい面もあるかと思います。

委員長	こういうのは、事務局はノータッチでしょうか。学生委員が選出されたら、もうお任せという形で、たとえば、何かの時に指導はないのでしょうか。
事務局	学生の自主的催しもございますが、レフネック本来の催しもあります。学生主体となつてされる企画につきましては、委員長副委員長会で「例年このような形でなさっております」とご示唆をさせていただき、また、入学式修了式に向けてご協力いただくよう、事務局がお手伝いさせていただく機会も多くございます。
委員長	わかりました。ほかにご意見ございませんか。
委員	問6.経験を活用して講師指導をされたには30パーセントですが、コミュニティ活動ボランティア活動には、おおかた80パーセントが希望されているということで、さきほど教育長がおっしゃられたように、教養として勉強されたことを、今度は公民館などで講義・講師をしていただけたらいいなと思いました。自分から「します」と立ち上げるのは難しいと言っておられましたので、公民館などで企画されて招かれる形ですればどうかと思いました。
委員長	生きがい学習塾のなかで、一日講師となる制度がありますね。
事務局	生きがい学習でよくご登壇いただく方には、学校教育の中で直接、生徒さんをご指導される方もございます。最近、とみに目立ってきましたのが、OB会のなかでご指導された先生を招聘されて、自主的に学習されることです。アンケートの中に含めることはできませんでしたが、大学の先生がレフネックで体験した充実した教育をぜひもう一度と来られることもございます。これは本当に無償です。蛇足ではございますが、私も病院で2年間、経験させていただきましたが、レフネックの経営学科でお世話になった先生からは、川西病院が非常に経営難ということで、病院経営に関する論文を送っていただきました。また、ゼミの学生を公開事業レビューのほうに病院側と市民の席の方にご臨席していただいて大学で分析、そういった波及効果もございました。レフネックの学びの場というものが、非常に多方面に広がっていると考えられます。
委員長	有り難いことですね。お勉強された方が講師の活動をなさることも、ずいぶん増えて来ているのではないのでしょうか。公民館として実感されておられることはございますか。
委員	地区館を入れて10館で年間180ほど講座を組んでおりますが、それぞれ特色がございます。今言っておられるのは、学ばれた方が講師として参加できないかということと思いますが、公民館で活動されておられる方も結構おられます。実態は「学ぶのが好きだ」「たえず学ぶ」という方が大多数です。中には「講師」という方もおられますが、公民館の職員がコンタクトをして、いろいろ講座を企画しています。レフネック、イコール公民館講師ではないです。そういった方を見出して地域のためになればと思います。
委員長	勉強だけして頭がおおきくなるより、活用していただくことが肝心と思います。

委員 文化遺産学科の「するつもりはない」「講師指導などおこがましい」とご意見がありますね。人前で習ったことをするには、もう一度熟成させていかないといけないので、ある程度の経験はいると思います。

委員長 レフネックや公民館で勉強したことで、自分の中では、かなり勉強したという意識はもちだと思いますが、それが即講師につながっていくというのは非常に短絡的です。あくまでも人の上に立って教育していく場ですから、慎重に考えていかななくてはというのが、私の個人的な意見です。世の流れでどんどん取り上げていこうという風潮もあるので、これは本当に人選も絡めて難しいのではないかと思います。

事務局 指導者の育成ということですが、こちらで長きにわたって活動されているレフネックパソコンクラブがごさいます。主宰されておられる方は、公民館でも活動の実地指導をされていましたが、ご高齢により他市のほうに転居されました。必然的にレフネックの指導の場からは引退ということをお聞いております。ただ、その方が俗人的に指導される、また、のちほど説明しますけれども、課外講座の指導者としてグループを引っ張ってゆく役割もされておられましたが、残されたクラブ自体が後継者を育成して、きちんと指導を引き継いでおられます。市外へ転居されてもレフネックの課外講座であったりとか、指導されるという任務を引き継ぐ組織へ育ておられます。学生一人ずつが指導者としての自覚を代々受け継ぐ、組織の中で後継者を育てるといったある程度の道もできているのかと思います。

委員長 パソコンなどは技術的なことですから、ある種そういうことは可能かと思えます。わかりました。他に何かありますか。

委員 基本的なことをお聞きます。こういった生涯学習制度のシステムはほかの自治体にもありますか。

事務局 他市にもこういう制度はごさいます。たとえば県はシニアカレッジ等がごさいます。当市の「レフネック」は、開校当初から木津川計学長のお考えのもとで、経歴、経験、また入学試験なしの開かれた生涯学習の場として、皆さんに親しんでいただいております。いちばん大きな特徴として、先ほどよりご意見ございました学生委員会制度、入学されたときには「面倒くさい」と言われる方が多いですけれども、親睦を深めるための自主活動をとおして友情をあたためることができます。また、学ぶ場としてレフネックの交流ルームを設けている活用できるところが他とは違う大きな特徴です。開かれた学校、友情を育む学校というのが、木津川学長の思いです。ユニークな場であると思われま。

教育長 教育のレベルも。

事務局 学んでいる内容を大学もしくは大学院レベルにとお願いしております。教育に熱が入

り、先生方も乗ってこられます。実はまだ学会で発表されていない、半年先に学会で発表する内容といった知識の供与もあります。先生が大事に温めてこられている知識の供与もごさいます。そういう点では、教育長が言われたように、よその生涯学習の場の趣味的文化的なものより、もう1歩先といいますか、先生方からも「教える楽しみを久しぶりに味わいました」というお言葉を聞かれるぐらいに、現場は熱い雰囲気になっております。

委員長 レフネックというのは非常に高レベルなことを教えていただけるということですが、他の施設や公民館と決定的に違うということですね。他の公民館では「いつでも、どこでも、だれでも」と非常に入りやすい門戸を広げておりますので、特別難しいものに取り組むのではなしに、一般教養としてのレベルで組んでいただいていると思うのですが、それを1段階上がった取り組みをしている事業と思っております。ですから、それが評価が高いということですね。なにかご意見ごさいますか。

委員 今のことに関して、レベルが高いということは、入ってこられる方もわかって応募しておられますか。入ってみてレベルが高すぎてご苦労なさることなどありませんか。そうした場合はやめていかれるのでしょうか。

委員長 やめていかれないですね。

委員 ついて行かれるのが大変ですね。

事務局 アンケートの中で「申込時と比べて」の項があります。応用工学は非常に難しい学科でした。私も講義に入らせてもらいましたが、理系は苦手です。学生に聞いてみましたら「何もわからない、けれども毎回聞いている、わからないけれど聞いて何となくわかる、ただ、どんな話だったかと聞かれると説明は難しい」と言われます。応用工学科の阪大の先生は学生に対して、大学と同じ授業をしてくださいます。担当として藤原が入っておりますが、1年次から2年次に上がるときに、例年は1割ほど辞退がごさいます。健康や就職が決まったなどの諸事情もごさいますが、応用工学科では、ほぼ退学がごさいませんでした。その後1人が体調を崩されて退学されましたが、全員が修了され、式に参加されました。おっしゃるように「農学科は畑をしているので、いろいろ教えてもらえんと思ってきたけれども、全然ちがう」といったご意見はいただきます。けれども、欠席されることなく、毎回来られます。自分が思っていた内容とは違うけれども、来たら楽しいと言われます。「難しい、何とかならないか」そういったご意見もさまざま言われますが、楽しみに来ておられるのが実情です。

委員長 大切なことですね。わからなくても毎日行きたい、学んでおられる、楽しみを見出している、その気持ちが私ども熟年といいますか、一番大切な生きがいにつながっていくのでは思います。だから出席率が良いのでしょうか。他にごさいませんか。

委員 市内の教頭会では、教頭研修に毎回生涯学習センターに来ておられる方に講師として

来ていただいています。学校の教育と違う分野で、たとえば、去年は航空力学の話、今年の色調の話でした。教頭会の先生の役割をしておられます。私もこのレフネックを見たときに勉強したいと思いました。水資源・環境学科、応用工学科など。現実に、教えることは学ぶことです。ですが、現実に学ぶという先生は私から見ると非常に少ない、物理的、時間的に学べない、特に中学校の先生方は、生徒指導、部活動など。ほんとうは、自分の教科以外にも先生方は学ぶことをし続けないと、教師は教えられない、知恵をつけるというためにも、もうひとつ、アンケートを見ていて学ぶことが楽しいとよく言われていますね。これが本当に生涯学習で定年退職されたような方が楽しいといわれるのは、わかります。いま、小中学生に同じアンケートをとって「楽しい」という同じ結果がでるのは、厳しいと思います。楽しむことが楽しいではない、苦しいけど来てみたら、ちんぷんかんぷんだけど、なんだか楽しいという部分、これは理想だと思います。

委員長 貴重な意見をありがとうございます。学ぶことがどんなに楽しいか、私たちの年代になって、年を経ないとわからない部分もあるかと思っています。

委員 それが一番大事ですね。講師云々よりもそこに来て学ぶ喜びを感じていただければと思います。

委員長 事務局の方もそういったことで喜びを感じているかと思っています。そういったことで、よろしくお願いします。

委員 中学生か高校生の方がおられましたね。その方はどうしておられますか。

事務局 農学科で1名高校生の方が来ておられます。学校のテスト前は休まれますが、ちゃんと参加しておられます。質問は、講義のあとで先生のところに行って、わからないことや聞きたいことを常に質問をして帰っておられます、真面目に。

事務局 ほぼ出席されておられます。どの席におられるかと、毎回気にしています。女性のそばに座っておられて、まわりも暖かく見ていただいているように感じます。班で集まるときも入られて、にこやかに参加されているのを遠くから見えています。講義で個人的に質問して講師から回答をいただくこともあります。特に親しくしていないようでも「あの若い子にも差し上げて」と渡すなど、特に面識はなくても皆さん気にかけておられます。他の学科と同じようで、若い方がいるから特別扱いするというものもない様子です。

委員長 年齢制限がないのもレフネックの特徴だと思います。また、議論が必要になるときがあるかもしれませんが、今回農学科の高校生の方はうまく溶け込んでおられるようですね。

それでは、次の議論に移らせていただきます。平成24年度生涯学習センター事業について、事務局からお願いいたします。

(2)平成24年度生涯学習センター事業について(資料2)

1. 生涯学習の推進

事務局 生涯学習短期大学レフネックにつきましては、学科の名称、テーマなど前回運営委員会でご報告させていただいたとおりでございます。ご了解いただきますようお願いいたします。

まず、新たに募集いたしました建築学科と水資源・環境学科は、各々20講座、昨年から学科で2年次の農学科と文化遺産学科の各20講座を実施する予定でございます。1講座あたり5万円の講師謝礼でもちまして、400万円の予算を計上しております。

続きまして、オープン講座について説明いたします。オープン講座は150名の定員のうち一般応募者80名、レフネックの学生70名が受講するものでございまして、本年度は3回の短期の講義で話題性のある学習内容や講師に依頼しております。以前もご案内させていただいたかもしれませんが、まず、川西市出身の内田先生の幸福度講座、それと、レフネックではたびたびご登壇いただいております、久富先生の遺伝子講座、もうおひとり、大阪大学から太田先生の医学講座を予定しております。内容等につきましては、お手持ちのレフネック入学案内、こちらを参照ください。前回の報告のとおりの内容でございますが、今回、オープン講座55万円の予算を計上しております。

続きまして、課外講座について説明いたします。

課外講座につきましては、パソコン講座4コース、各4回を予定しております。郷土史教室は1コース4回、陶芸入門教室は1コース7回を予定しております、合計22万600円を予定しております。

レフネックの在学生、OB生によります生きがい学習塾でございます。

レフネックの学生が教壇に立って自らの経験や学習内容を講義し、発表指導するもので10回の計画を立てております。これは先ほど、委員長が言われましたとおり、このレフネックの非常にユニークな試みの一つでございます。1回5,000円で5万円を予算化しております。

学長の式辞、講話で3回のご登壇をいただきまして50万円を計上しております。

続きまして11ページの方に移らさせていただきます。

2. 自主学習グループへの支援

事務局 学生委員についてですが、先ほどよりご討議いただきました内容で、レフネックの学生で構成する学生委員会を適時開催しており学生間の意思疎通、友情を育む場となっており、そうした場を提供しております。

在学生やOB生の交流の場の提供ということで、こちらも出来る限り協力させていただいております。

生涯学習センターを拠点とした自主学習グループへの部屋の提供でございます。昨

年度末で 68 グループが当センターを拠点として活動しておられます。

3. 生涯学習センター運営委員会の開催

事務局 今年度は、レフネック講座企画の進捗等にあわせまして、また、移転の問題に際しまして皆さんのご意見を頂戴する場、そういったものを鑑みまして、3 回を予定しております。

4. センターの施設管理

事務局 設備保守管理委託で 254 万 9 千円を、業務委託料で 538 万 1 千円を予算として計上しております。

以上、生涯学習センター事業について説明を終わらせていただきます。

質問、特記なし

(3)平成24年度レフネック第19期生の公開抽選について(資料3)

(4)平成24年度レフネック第19期生の入学式について(資料4)

委員長 それでは、続きまして平成 24 年度レフネック第 19 期生の公開抽選についてお願いいたします。

事務局 まず、レフネック第 19 期生募集状況についてです。レフネック 19 期生 1 年次建築学科と水資源・環境学科につきましては、3 月 1 日から 30 日まで募集をいたしたところでございます。入学枠および優先方法については、ここ数年実施のとおりで、優先枠は各 20 人につきましても、今回も超えることはございませんでした。応募期間中、特に苦情もなく、落ち着いた応募状況であったと考えております。また、この表で示すとおり、両学科とも定員を超える応募がございました。建築学科で 121 人、水資源・環境学科で 97 人、各々の学科 1.7 倍、1.4 倍という倍率になっております。委員の皆様には、恐れ入りますが調整のうえ、公開抽選の実施、立会いをお願いいたします。公開抽選につきましては、4 月 14 日(土)を予定しております。例年、委員長、副委員長のご協力をいただいております。ご予約などを伺いながら調整をお願いしたいと思います。

続きまして、平成 24 年度レフネック第 19 期生の入学式について説明させていただきます。

今年度の建築学科、水資料・環境学科の入学式につきましては、資料 4.のとおり予定しております。委員の皆様方にはご多用とは存じますが、当日午前 10 時にご来場のうえご臨席いただきますようお願い申し上げます。また、大塚委員長におかれましては、記念写真の撮影がございますので 9 時 30 分にご来場をお願いいたします。なお、入学式のご案内につきましては、追って文書にて通知させていただきます。

以上報告議題(3)(4)につきまして説明とご依頼を終わらせていただきます。

(5)生涯学習センターの利用状況について(資料5)

委員長 最後に生涯学習センター利用状況について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局 こちらの表では、右側に平成23年度の利用合計を示しております。総利用者数は38,708人、件数は1,414件と昨年度より若干減少しております。これは3月17日時点で集計をしておること、昨年度は定期的な管理工事がございまして、空調工事で5日間ほど利用不可となったこと、定期的に使用しておられた大きなコーラスグループ1つが活動拠点を他へ移されたということが理由と考えられます。以上です。

委員長 ありがとうございます。昨年に比べて、少し減っているということですね。

事務局 利用者につきまして、殆どが登録しておられるグループのご利用となっておりますので、極端な増減はありませんが、ここ数年、徐々に増えてきております。利用者数は注目すべき点ですが、もうひとつ、ここを定期的、計画的に利用するときに、部屋割りの問題がございまして、調整には会場、曜日、時間の調整に半日ほど費やします。この総使用人数、件数のうしろに学習グループの多さがございます。今の状態が当センターとしてはMAXの状態なのかと思います。いま申しましたが、大きなコーラスグループが活動の拠点をよそへ移されたこと、また、維持管理工事のために5日間ご使用いただけない時期がありましたことが、多少影響したと考えられます。

委員長 定期的にグループとしてご使用される方は決まっておられて、スムーズにお使いいただけるとして、私も、ずいぶん以前に中央公民館のほうで日にちがとれなくてこちらをお借りできないかと打診したことがございました。そのときに非常に手続きが煩雑で、なかなか単独でお借りしにくいという状況が、そのときにあったのですが、当然その月は来月も無理だったのです。1か月以上も、単独ではすぐには取れないという状況があったのですが、今もそのように日にちがかかりますか。申し込む日にちにもよるのでしょうか。

事務局 生涯学習センターの利用申し込みは、ご利用される月の前の月、1か月前からのお申込みということでしております。5月のご利用であれば、4月1日、1日が日曜日、月曜日であれば、火曜日からの申込み受付をさせていただいております。

委員長 それで、受け付けていただけますか。

事務局 ご希望の曜日、時間等が空いておれば、受け付けのほうさせていただいておりますが、私共のセンターでは個人でのご利用はできません。グループでのご利用で、宗教、政治、営利目的以外であれば、内容的に規約などを見させていただいたなかで、ご利用

用が可能であれば、受付けさせていただいております。

委員長 公民館と基本的には同じということですか。

委員 そうですね。平成 21 年度に貸館の有料化ということで、登録グループとその他利用ができました。若干使用料は異なりますがね。中央公民館は 4 か月前から、地区館は 2 か月前からの受付です。かつてよりは利用しやすくしております。

委員長 使用料に関してですが、金額は適当でしょうか。いかがでしょうか、お使いになる事あるかと思いますが。

委員 ユネスコ協会は、社会教育関係団体として、最初から減免措置を取っています。それ以外の方は、一応算式があります。維持管理経費の 50 パーセントを負担していただくとしていますが、トータル的にいきますと、生涯学習センターもそうですが、非常に少ない。算出の経緯もありますが、本当に一部を負担していただいております。絶えず説明はしておりますが、それまで無料であったものが有料といたしました。いまは、活動場所を確保するために必要とご理解をいただいております。

委員 有料になって時間も短くなって市民としては、以前はめいっぱい使えたものが、50 分単位の使用は活動が忙しく感じます。清掃の方が待っておられるので、ロビーに出て残りを済ませることもあり、内心は不便を感じます。あと 5 分というのが、いつもです。5 分前には入室できるのですが、ぐっと我慢しています。

委員長 結構 10 分というのがね。安くしてほしいというではありませんが、参考のためにお話します。豊能吉川の自治会館を使ったことがあります。部屋代が高くて驚きました。なにげなく使っておりましたが、帰るときにお聞きしましたら、1 時間 600 円でした。10 時から 12 時までお借りして 1,200 円とおっしゃったので、それから見ると川西市の部屋代は安いと思いました。

委員 安すぎじゃないですか。

委員長 そのように感じました。市民の側から言いたくないですが。

委員 公民館のパソコン講習させていただいているのですが、いつも時間オーバーしています。申し訳なかったなって思いました。

委員 勘違いしないで、公民館主催のパソコン講座、地区館のですね。それは 1 回 3 時間ですが、これは受講者の方が非常に喜んでおられます。主催事業ですので、時間も十分とってやっています。

委員 時間厳守いたします。

委員長 長く借りる場合は楽ですね。50分が関係なくなりますから。

委員 融通がきかないです。丁度にはじめたいけど準備がいりますから。あわただしく感じます。準備や片付けの面で。

委員長 後の10分というのが結構響いてきます。使用料とあわせて時間についてもご検討をお願いしたいと思います。あまり言うてはいけないかもしれませんが、他市ではそういうこともありますから。ほかに何かございますか。

3. その他

委員 数回、レフネックの公開抽選に立ち合わせていただいています。今年の状況をみまして初めて応募の方が37人、27人おられますが、できたら全員優先入学にさせていただきたいと思います。まったく個人的な意見で恐縮ですが、OB生は先ほどおっしゃったように、学ぶ楽しみをすでにご存じですので、できたら初めての方を優先にさせていただいて、門戸を広げていただきたいと思います。今回はそういう表記をされていないので、無理かもしれませんが、できればと思います。

委員長 ごもっともだと思います。初めて申し込まれて落ちることも結構ございます。ただ、そうなると優先枠との関連が、優先、優先でだぶってくることもあります。学生を選ぶのに優先ばかりが先行するのはどうかと思います。

委員 ある学科を修了したら1年は申込できない期間を設けることもできます。私は5回当選しています。学生の側で1年休むルールをつくればどうかという声もあります。そうしてOBが減ると70人に満たないケースもあるわけです。

委員長 今年、水資源の応募者数は97人、1.4倍、ということは、以前と較べると倍率は高くないようです。

委員 文化遺産の系統は応募が多いです。女性が多いです。応用工学などは敬遠されますが。

委員長 最初の頃は固いのが多かったと思います。40名のうち女性は1割もいないぐらいでした。最近では女性も入りたいと思わせるものが増えてきました。いいと思っていますが、男性好みの科目ばかり揃えてもいかがかと思えます。

事務局 学科専攻を考えると、たとえば、同じ文学を取りあげるとしても、文学は三島由紀夫だけ取り上げる、谷崎潤一郎だけを取りあげるとなると非常に志向性が高い、そうすると途中で飽きられることがレフネック開校時にありました。それをうまく連携して40回の講座につなげていく、見ていただくとわかりますように、文学は長きにわたって取り上げていっていませんでした。それを文化と文学をミックスさせて地域制、関西だけに限定

したものにするというので、ひとつ背骨をいれることが大事と感じました。いま言われたように、人気の高い学科は応募で200人を超えて3倍近い倍率になりました。それはアンケートにありましたように歴史を採用した年度のことです。そうすると、入れなかった方からのご不満も寄せられます。もうひとつは、歴史を研究されるグループが公民館や生涯学習センターに育ってきました。そういうこともありまして、そういった分野は自主的グループに委ねて、またアンケート結果、時代の趨勢、運営委員会のご意見をふまえております。そういったなかで平成16年度に優先枠制度が運営委員会のなかでご議論いただいて、つくられて、一度落選されたかたには優先枠を設けて、事務局でも応募者のリストは管理しております。修了した方は1年間応募できなくなると噂のあった時期には、「学習意欲が高まっているときに門戸を閉ざすのはやめてくれ」とご要望が多く寄せられたことがあります。各々がいろいろな立場でご要望を持っておられます。優先枠を設けて今いちばん落ち着いているところです。また、事務局の方でも2年間継続して受講していただけるようなカリキュラムの作り方を講師の先生と相談しておりますので、運営委員会の方でもまたご協議いただきましてご検討いただければと思っております。

委員長 大変難しい問題ですので答えが出しにくいと思います。勉強したいときは割に集中的になります。4年、5年と気持ち傾いてくると思います。申込みされる方の自覚に任せるといいのでは。

委員 時間だけはありますから。

委員長 抽選というのは公平なようで公平でないことがあります。同じ方ばかりあたってしまうこともあります。

委員 45人学級のとき「くじ棒は黒光りしたものを引く」と言われたものです。

委員 去年は生涯学習センターが、その前は公民館が、公開事業レビューで学識経験者や市民の方にご意見をいただきました。川西は学ぶ場が多くあります。レフネックを落選したときのために、りんどう学園を申し込む方からは、レフネックの抽選のあとに、りんどう学園の抽選を設けてほしいというご意見もありました。

委員長 修了式や入学式で利口そうな方をたくさん見ます。川西はレベルが高いと思います。

委員 大学で科目履修できるところに週1回通う人もいます。

委員 大学には科目等履修の制度は、制度上どこにでもあります。それと聴講生制度。短期一科目15回を一万から一万五千元で受講できます。制度は大学にありますから、学ぶ意欲さえあれば参加できます。パンフレットもございます。

委員長 図書館も使えて大学はいいですね。

委員 個人で工夫することも必要です。

委員長 学生と一緒に勉強できて刺激的です。地元でこの環境がある川西は充実していると思います。こちらのカリキュラムのあり方はどうでしょうか。

事務局 講義 40 回ができるまで調整にはいろいろな導入がございます。場合によっては 40 人以上の先生を前に説明したこともありました。大学の講義をそのまま持ってくるのは難しいという雰囲気もあります。ここ数年、大学自体が開かれてきていますので、自分の講義を咀嚼していただいて一般市民に聞いていただくことも、最近はやりやすくなったようにも思われます。

委員長 高度なものを今この時に合わせて学習の中に盛り込んでいただく、大学の先生を確保していただくことも大変な努力が必要かと思えます。そういった価値のある短期大学形式のレフネックと思えます。事務局も大変だろうと思えます。教育長もいろいろなご意見をお持ちだろうと思えます。今日はたくさんのお話ことができました。次回お会いする時も話題をいろいろといただけるといいかと思えます。

委員 来年度アステに移転が決まっていますね。スペース的には今と同じ程と聞いております。市民の皆さんは、ピアノが持って行っていただけるかとすごく心配しておられます。せっかくの場ですので、言わせていただきます。

委員長 先ほど教育長も言われましたが、細かいことを決める、そういう段階になりましたら、我々の意見も聞いていただければと思っております。

事務局 先程お願いしました公開抽選の立会いは、4月14日10時から、委員長お願いします。小一時間ほどお時間を頂戴いたしますが、あとお1人、調整をお願いします。

委員長、副委員長の立会いと決まる。

その他特記なし

閉会 11時30分